



能代第二中学校
教諭 飯塚 和人

これが私の指導法

～知的財産の継承～

生徒に「興味・関心が高まった」反応や、「主体的に活動した」様子が見られたとき、ついつい楽しくなり熱が入る。毎日こんな授業ができればと、諸先輩の公開授業などを真

似びながら日々反省を生かそうと試みている。そんな中、最近の授業づくりで特に意識していることが二つある。

一つ目は、小学校での学習内容を「指導要領解説・小学校の教科書・生徒とのやりとり」で押さえるところである。中学校の学習内容は小学校の内容を基に構成されているところが多く、特に生徒とのやりとりの中で、そのことを意識することが大切だと考える。先日、水溶液について学習した。「物質が水に溶けるとは？」については、小学校五年生において学

習している。レディネスをチェックする中で、「○○先生と○○したよね。」「△△先生にろ過の仕方は教えてもらいました。」という声が聞かれた。既に何が分かっているのかを、教師も生徒も明確な意識をもつことができる。

二つ目は、小学校で身に付けてきた「理科の見方・考え方」を授業の中で働かせることである。例えば、小学校三年生から生徒たちは段階的に「比較・関係づけ・条件制御・多面的」といった考え方のスキルを経験し、獲得してきて



我が校の実践

二ツ井小学校

教諭 大沢 友子

「起業体験活動二年目を迎えて」

本校では、昨年度から文科省の指定を受け、起業体験活動に取り組んでいる。昨年度は、二ツ井の特産物を生かしたおにぎりの商品開発を行い、「ふるさと二ツ井もりあげ隊」として活動を行った。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、文科省の指定は中止。この状況の中でやれるのか、共に活動しようとしていた二ツ井中学校と検討を重ねた。結論は、「できることをやろう。」子どもたちの意欲を尊重し、続けることになった。

①全体での目標設定

まずは、小学校五年生から中学校三年生までが集まり全体会を行った。丸岡元町長の講話や「いとく」と「道の駅ふたつ」からの「二ツ井名物の弁当とお土産を作ってほしい」との熱いコールを受けて、今年度の目標設定ができた。

②企画部の発足と部門会の活動

活動の中心的な役割を担う小学校六年生と中学校三年生の代表による企画部会を組織した。活動の見通しをもち全体をリードしている。また、一人一人の希望を生かして、弁当とお土産の二部門に分かれて商品のアイデアを絞り込んでいく。

③試食会の実施

いどくの弁当の試食会を行った。子どもたちの食べた感想をもとに調理方法や味付けが改善された。この後お土産と合わせて、第二回試食会を行って、商品が本決まりになる。



コロナの影響で計画通りにいかないことも多々あったが、その都度小中で話し合い、歩みを止めずってきた。地域の方々の多大なるご協力あってこそと、改めてありがたく感じている。弁当とお土産が店頭に並ぶ日も近い。今後もチーム二ツ井で力を合わせ、元気な街づくりをする子どもたちを育てていきたい。

いる。水溶液の学習では、「温度を変化させるのであれば、水と物質の質量は同じにしないとならないよね。」などの声が聞かれた。どこでどのような考え方を働かせるのかを計画し、生徒に意識させていくことで、課題解決の力が高まっていく。

生徒の土台を知り、より良い積み重ねをさせていきたい。

掃きの場面



南中3大自慢の一つ「拭き掃除」
生徒会の提案で縦割り班を編制
令和2年7月9日 能代南中学校

編集後記

各校で学校祭や学習発表会が開催される時期となりました。難しい制約がある中でも、各工場の凝らし、大きな成果を挙げたいです。加藤校長先生の着想にもあふれています。統合記念ソングのお披露目は、きつと観望の心で披露したことで、永き市内在る学校に残っているオリーブの歌が、目を浮かびました。(F)